

報告案件資料

令和5年8月1日

独立行政法人 水資源機構

事業の審議状況

【利根川水系利根川・江戸川河川整備計画フォローアップ委員会】
令和5年6月29日(木)

委員：群馬大学 清水委員長、千葉県立関宿城博物館 糸原委員、
埼玉大学 田中委員、日本大学 手塚委員、
千葉県立中央博物館 糠谷委員

思川開発事業 再評価

・事業継続について了承



委員会開催状況



施工状況



現地視察状況

(再評価) 思川開発事業

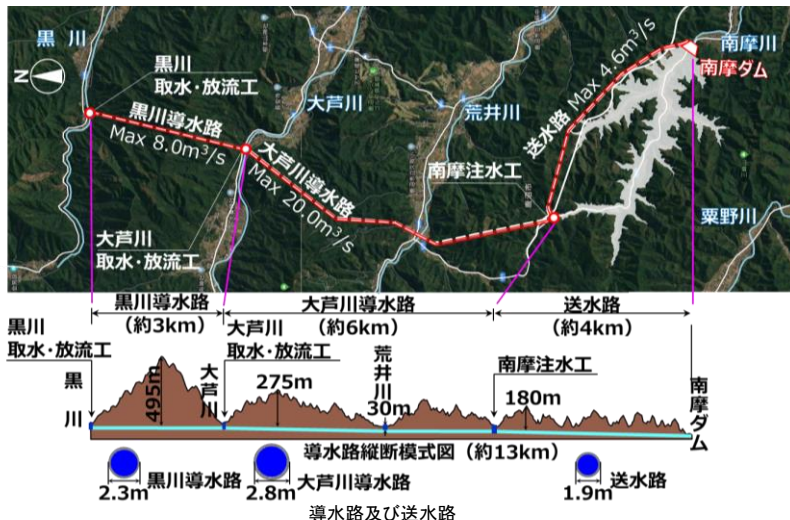
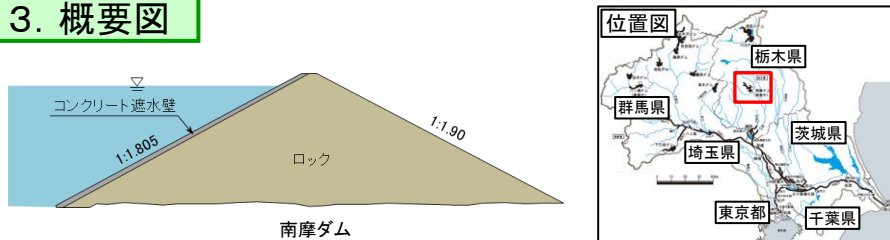
1. 目的

- ・南摩ダム地点の計画高水流量130m³/sのうち125m³/sの洪水調節を行うことにより、思川沿川、利根川中・下流の洪水被害の軽減を図る。
- ・南摩川、大芦川、黒川、思川および利根川沿川の既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持と増進を図る。また、利根川水系の異常渇水時には緊急水の補給を行う。
- ・栃木県、鹿沼市、小山市、古河市、五霞町、埼玉県及び北千葉広域水道企業団の水道用水として最大2.984m³/sを供給する。

2. 事業概要

- ・事業概要: ダム本体、導水路、送水路、揚水機場、管理設備、付替県道、付替林道、用地補償 等
- ・事業期間: 昭和44年度～令和6年度
- ・全体事業費: 前回: 約1,850億円 今回: 約2,050億円

3. 概要図



4. 事業の進捗状況等

- ・ダム本体、導水路、送水路、管理設備、付替林道の工事等を実施中。



- ・事業費: 公共工事関連単価の変動や消費税率の変更といった社会的要因等によって事業費が増となった。
- ・事業期間: 変更しない。

5. 事業の効果等

- ・南摩ダムの洪水調節による洪水被害の軽減、流水の正常な機能の維持のための補給及び水道用水を供給することが出来る。

6. 事業の投資効率性

※B,C: 現在価値化後

【全体事業】		【残事業】
(前回)	(今回)	
総便益B: 約2,774億円	総便益B: 約3,114億円	総便益B: 約443億円
総費用C: 約2,273億円	総費用C: 約2,931億円	総費用C: 約357億円
B/C: 1.2	B/C: 1.1	B/C: 1.2

7. 対応方針(案)

- ・当該事業は、現段階においても、事業を巡る社会情勢等及び事業の必要性は変わっておらず、引き続き事業を継続することが妥当と考える。